

平成29年教育委員会 第12回定例会

1 日 時 平成29年12月21日(木) 9時00分開会 10時19分閉会

2 場 所 教育委員会庁舎3階 第1会議室

3 出席委員 教育長 林 秀 樹
教育委員 笹 谷 純 代
教育委員 小 澤 倭 文 夫
教育委員 荒 田 純 司
教育委員 常 見 幸 司

4 欠席委員 なし

5 出席職員 教育部長 飯 田 敬
教育部市立学校適正配置担当次長 石 崎 政 嗣
学校教育支援室長 中 島 正 人
学校教育支援室主幹(指導担当) 大 山 倫 生
学校教育支援室主幹(学務担当) 成 田 和 陽
学校教育支援室主幹(市立学校適正配置担当) 佐々木 雅 一
教育総務課長 笹 山 貴 史
施設管理課長 伊 藤 雅 浩
生涯学習課長 海 谷 昌 弘
生涯スポーツ課長 丸 田 健 太 郎
図書館副館長 石 塚 則 子
総合博物館副館長 東 山 一 成
教育総務課総務係長 安 藤 英 明
教育総務課総務係 会 沢 秀 紀

6 傍聴人 なし

7 議 題

議案第1号 小樽市生涯学習プラザ運営協議会委員の委嘱案

協議第1号 平成29年度教育費補正予算案について

協議第2号 平成30年度教育費予算案について

報告第1号 小樽市成人式について

報告第2号 小中学校の学校再編について

報告第3号 平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

結果について

その他 ・ 寄附採納について

8 議 事

林教育長 ただいまから、教育委員会第12回定例会を開会いたします。
本日の会議の議事録署名委員に、荒田純司委員を御指名させていただきます。
はじめにお諮りいたします。協議第1号「平成29年度教育費補正予算案について」と、協議第2号「平成30年度教育費予算案について」は会議規則第13条第1項第3号により非公開とし、議事録については結果のみ記載することとし、最後に審議していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

各委員 (異議なし)

林教育長 では、そのように進めさせていただきます。
早速議事に入りたいと思います。それでは、議案第1号 小樽市生涯学習プラザ運営協議会委員の委嘱案の説明をお願いします。

議案第1号 小樽市生涯学習プラザ運営協議会委員の委嘱案

生涯学習課長 議案第1号 小樽市生涯学習プラザ運営協議会委員の委嘱案について御説明いたします。

今回の委嘱につきましては、1月5日で現委員の任期が満了となるため、各機関からの推薦などにより新たに委員を委嘱するものであります。任期は1月6日から平成32年1月5日までの2年間となります。

今回の委嘱委員7名のうち新任は1名で、プラザ利用者枠として、おたる若者ヴィレッジから推薦がありましたので、田中理穂^{たなかりほ}さんを委員として提案するものであります。

以上、御審議のほど、よろしくお願いたします。

林教育長 ただいまの説明に関しまして、御意見・御質問等ありましたらお願いします。

笹谷委員 旧委員の名簿からしますと、ヤングシップという団体からおたる若者ヴィレッジという団体に変更になって、田中さんが新任で、ということのようですけれども、ここ(ヤングシップ)が変わった理由と、若者ヴィレッジさんって、ちょっとどんな活動されているのか存じあげないので、どんなことをされているのか教えていただけますか。

生涯学習課長 ヤングシップさんから、洪間さんという方を御推薦いただきまして、プラザ利用者として委員として委嘱していただのですが、今現在ヤングシップとしての活動を行っていないということで私どもに報告がありまして、それで委員のほうを辞退させていただきたい

との、渋間さんからの申出がありました。今回の委員委嘱にあたりまして、今までここに若年層の方々を、プラザ利用者として委嘱をしていたものですので、市内で若い世代の方々が活動している方を、こちらのほうで調べさせていただいた中で、おたる若者ヴィレッジさんという名前が出てきまして、その方と接触を図らせていただいたところです。

若者ヴィレッジというのはどういう団体なのかと委員のほうから御質問がありましたけれども、まず若者ヴィレッジは市内で29歳以下の方がつながる場を作りながら、暮らしの中の、あったらいいなというものを形にする若者のコミュニティというところの組織と聞いております。活動としては、定期的に交流イベントを開催したり、暮らしを楽しくするアイデアとかを皆さんで意見を出し合いながら、レピオとかを、そんなに（利用回）数多くではないのですが、活用しながら活動されている団体でありますので、今回私どもとしての若者層の取込みというのも必要でありますので、この方を委員として委嘱案を提案するものであります。

林教育長 笹谷委員、よろしいでしょうか。

笹谷委員 はい。

林教育長 ほかにございませんか。よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 それでは、本件、了承したいと思います。

それでは、報告第1号 小樽市成人式について説明をお願いいたします。

報告第1号 小樽市成人式について

生涯学習課長 報告第1号 平成30年小樽市成人式について御報告いたします。

開催日時等は、平成30年1月7日、日曜日の午後2時30分から、小樽市民会館で執り行います。

今回の対象者は平成9年4月2日から平成10年4月1日までに生まれた方で、該当者数は12月1日現在1,042人で、昨年より77人増えている状況であります。式当日の参加数は、約1,000人を見込んでおります。

式典については、午後2時30分から2時55分までの25分間を予定しており、はじめに、開式のことばを成人式運営委員長から述べていただいた後、国歌斉唱、次に、主催する立場から市長が式辞を述べ、続いて議長の祝辞となり、式典の最後は成人代表による誓いのことばの宣言となります。成人代表は、小樽市成人式運営委員会のメンバーの中から選出しており、今回は小樽歯科衛生士専門学校の野上真希さんと小樽市立高等看護学院の真子夕葵さんの2名となっております。

式典終了後は、アトラクションとして、市内の企業から協賛いただいた景品などを提供す

る抽選会や、恩師のお祝いのメッセージなどを映し出すスライドショーの実施を予定しております。このほか、祝賀行事として、裏千家^{たんこうかい}淡交会小樽支部によるお茶席の披露、記念写真コーナーでは、市長と一緒に記念撮影を行い、午後4時をもって全ての行事を終える予定であります。

今回の成人式の開催にあたっては、交通安全指導員・小樽ハイヤー協会の協力による交通誘導・整理、小樽青年会議所の皆さんによるアトラクション等の会場整理、聴覚障害者の対応として「要約筆記の会 えんぴつ」による市長などのあいさつ等のスクリーン表示、市内企業の協賛品など、多くの団体からこれまで同様の御支援をいただいているものであります。

以上、平成30年成人式の開催について御報告いたします。

林教育長 ただいまの説明に関しまして、御意見・御質問等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 それでは、このように準備を進めたいと思います。
それでは、報告第2号 小中学校の学校再編について説明をお願いします。

報告第2号 小中学校の学校再編について

学校教育支援室主幹（適正配置担当） 報告第2号 小中学校の学校再編について報告いたします。
前回、11月30日開催の第111回定例会以降の状況についてです。報告第2号を御覧ください。

統合協議会関係です。

入船小学校・奥沢小学校・天神小学校統合協議会関係ですが、12月11日の第6回統合協議会では、部会報告として、「学校づくり部会」から新しい学校づくりについて、「学校支援部会」から通学の安全確保について、それぞれ報告があった後、協議概要として、新しい学校づくりについて、統合奥沢小学校グランドデザインと平成30年度の学校経営方針が学校づくり部会から提案があり、了承されました。

資料1「統合奥沢小学校グランドデザイン」を御覧ください。このグランドデザインは、統合奥沢小学校の学校教育目標や学校経営の基本方針と重点、学校での取組、家庭や地域での主な取組、特色をまとめたものとなっております。

次に、資料2「平成30年度学校経営方針」を御覧ください。1ページに「学校教育目標」と「目指す学校像と教師像」、2ページに「学校教育目標の具体化」として「子ども像」、3ページに「学校経営の基本構想」、4ページから5ページには教育課程経営、そして最後に統合奥沢小学校の学校イメージを載せております。

それでは報告第2号にお戻りください。協議概要として、通学の安全確保について、統合奥沢小学校の通学安全マップについて学校支援部会から提案があり、了承されております。

資料3「奥沢小学校通学安全マップ」を御覧ください。このマップは、これまでの部会で

検討し、第5回統合協議会で通学安全マップに記載することとした注意箇所や現在の奥沢小学校の通学安全マップに記載されている注意箇所をもとに作成しております。なお、年度ごと、状況に変化があれば、随時、必要な修正を行っていくことになります。

報告は以上です。

林教育長 ただいまの説明に関しまして、御意見・御質問等ございましたらお願いいたします。

笹谷委員 通学マップは今（資料は）白黒でいただいていますけれども、白黒の状態です。配付されるものですか。

学校教育支援室主幹（適正配置担当） 配付は基本的には年度ごと、また各家庭に配る形になりますので、どうしてもカラーというのは難しいということで、白黒で配付する形になります。統合協議会の中でも出たのですが、学校に掲示するもの等については、カラーというのは難しいのですけれども、これを拡大したもので大きいものですね、町内の会館とかに貼るものについては、拡大にしたものにできないかという御意見をいただいておりますので、それについては現在検討しているところでございます。

笹谷委員 了承されたものではあるのですが、中身を拝見しますと、ここは通らない・横断しないというのと、左右を確認してから渡るというのと、要は同じ表記になっているので、この辺り、危険度が違いますよね。「通らない」と「左右を確認してから渡る」というのが同じで、見ただけではわからないので、この辺りがもうちょっとわかりやすく、ちゃんと伝わるかなと少々不安になるのですけれども。隅々見ていただける方はわかると思うのですが、なかなか保護者の方全員が隅々まで見ていただけるかというのは疑問なので、本当にここは通ってはだめ、横断してはいけないという所は、もう少し表記を工夫して、目立つように何かしていただいたほうがいいのではないかなと思うのですけれども。

学校教育支援室主幹（適正配置担当） 先ほど御説明したとおり、状況の変化等によっては変えていくということとなっております。ここで決まったものということではなく、一定程度の形がこれで了承されておりますので、必要なものについては修正して出していく形になっていくことになるかと思っておりますので、検討させていただきます。

林教育長 是非、こういう意見があったということを統合協議会側にも話していただいて、もうちょっと改善できるところは改善、まだ十分時間もありますので、調整していただきたいなというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

ほかにございませんか。よろしいでしょうか。

この奥沢小学校、今のと、新しい統合奥沢小学校と、主な変更点でいいのですが、この教育目標とか、目指す姿だとか、そこら辺ちょっとわかっただけで教えてほしいのですが。

学校教育支援室主幹（適正配置担当） まずこちらの教育目標を作成する、決定する前に、統合協議

会においては、保護者や児童から新しい学校についてのアンケート調査をさせていただいております。教育目標を作成する際には、こちらに書いているとおりに、私どもの話合いの中でも、夢を育むというような、そういうフレーズが委員の中からも出たものですから、今回の統合奥沢小学校の教育目標については、夢を育むというところを大事にしたいということで、大きな教育目標の一つ目として、「夢をはぐくむ奥沢小学校」というのがありまして、その下に知徳体ということで、「深く学び 伝えあう子」、「なかよく やさしい子」、「たくましく やりぬく子」ということで、一つの大きな教育目標があって、その下に知徳体がついていくというような形の教育目標になっております。

今までの奥沢小学校の教育目標といたしましては、「明るく 元気に」、「強く やさしく」、「楽しく まじめに」、「みんな 仲よく」という、こういう教育目標であったものが、今お話ししたとおりに、「夢をはぐくむ奥沢小学校」というところが一つの大きな目標となって、その下に知徳体が入っていったというものになっております。

取組につきましても、こちら大きく変わったところということになるかどうかちょっとわかりませんが、キャリア教育ということに力を入れていくということで、もともとは奥沢小学校校区にも工場や商店がたくさんあったところがございますが、校区がまた広がりまして、天神小学校との統合ということもありまして、奥沢水源地のほうも校区になり、また向こうのほうにも工場などがあるということで、より教育資源が増えていくということで、キャリア教育にもっと力を入れていくということで、特色として新しい統合奥沢小学校で取り組んでいくということです。また、コミュニティスクール、いろいろ市内の学校でも導入していく形になろうかと思いますが、この契機にコミュニティスクールを視野に入れて、地域との連携を図っていききたいということも、特色となっております。また、健やかな体の育成という部分につきましましては、もうすでに奥沢小学校に体育専科の教師が入ってはい入るのですが、そういうこともありまして、統合奥沢小学校でも体育専科の教師が付いていただくよう努力させていただいて、そしてそこをまた継続していききたいということで、健やかな体の育成というところを特色としております。また、読書活動の充実につきましましては、こちらはすでに今、奥沢小学校に司書を配置させていただいております、読書活動に力を入れ始めておりますので、これも統合になっても引き続きやっていきたいというところではございます。

林教育長 ほかに、御質問・御意見等ございますか。よろしいですか。

各委員 (なし)

林教育長 それでは、この件を終了したいと思います。
続きまして、不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について説明をお願いします。

報告第3号 平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果について

学校教育支援室主幹（指導担当） 報告第3号 平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒

指導上の諸問題に関する調査」結果について、御報告いたします。

文部科学省から平成28年度の結果が公表されましたので、小樽市の状況と併せて御報告いたします。お手元の資料①を御覧ください。

はじめに、いじめの認知件数ですが、小学校50件、中学校27件、合計77件となっており、前年度と比べ、小学校で33件増、中学校で7件増、合計では40件増となっております。1,000人当たりの認知件数は、小学校で11.1人、中学校で10.1人、小中を平均すると10.7人となっており、小・中学校ともに全国、全道と比べて少なくなっておりますが、全国と比較するとかなり少ない状況となっておりますので、今後は、いじめの定義に照らし合わせ、いじめられた児童生徒の立場に立って、いじめを積極的に認知していく必要があります。

いじめの認知学校数についてですが、小学校が6校、中学校が7校となっており、全てのいじめが解消しております。

学年別の状況につきましては、小学校1年生が認知件数に対する比率が18.2%と最も多く、次いで小学校4年生と中学校2年生が多くなっております。

また、いじめ発見のきっかけとしては、小・中学校ともに「アンケート調査など」が最も多いことから、本人から担任に相談しづらい状況となっていることが伺えます。

いじめの態様は、冷やかし・からかいが小・中学校ともに多い結果となっております。

いじめは、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうるものと認識し、12月2日(土)に行われた「いじめ防止サミット」で交流した内容を、各学校に持ち帰り、児童会・生徒会によるいじめ防止の取組など意識の高揚を図る組織的な取組を強化するよう指導しているところです。

なお、1月の定例教頭会議の実践交流会がこの後ありますので、いじめの定義や正確な認知に向けた取組、国や道の「いじめ防止基本方針」の改定内容などを改めて周知するとともに、各学校におけるいじめの問題への対応がより一層充実するよう指導してまいりたいと考えております。

次に、不登校の状況について御報告いたします。資料②を御覧ください。

不登校を理由に30日以上欠席した児童生徒数は、小学校19名、中学校76名、合計95名となっており、前年度と比べ、小・中学校ともに6名増となっております。1,000人当たりの人数につきましては、小学校が4.2人、中学校が28.4人、小中を平均すると13.2人となっており、全道と同程度、全国より若干少なくなっているという状況でございます。

学年別の状況は、小学生では5年生、中学生では2年生が最も多くなっております。

不登校となったきっかけは、小学校では、本人や保護者と話をしても理由がはっきりしない「その他」が最も多くなっており、中学校では「不安」や「無気力」が多く、いずれも本人にかかわる問題での不登校が多い状況です。下段の表にありますように、平成28年度は、不登校児童生徒への指導の結果、登校できるようになった児童生徒が7名おりました。

市教委では、28年度に、適応指導教室に支援員を1名配置し、学校訪問や家庭訪問など訪問型の支援を行うことで、学校訪問を33回実施し、相談の対象となった児童生徒は94名となりました。そのうち、適応指導教室には24名の児童生徒が通級し、29年度の新学

期には、その中から（中学生）6名が学校復帰を果たすなど、昨年度は大きな成果を上げております。また、今年度から、新たに教育支援センターを開設し、11月末現在で学校訪問が46回、相談の対象となった児童生徒が114名、新たに開設したふらっとルームの利用者は43名など、昨年度よりも活用が一層図られております。

今後、校長会議等において、新たな不登校を生まないための学級づくり、学校づくりを行うために、改めて教育活動を見直すとともに、自立支援に向けて、登校支援室の教育支援コーディネーターを活用するなど、児童生徒一人一人の実態に応じた対応策を検討するよう指導してまいりたいと考えております。

最後に、暴力行為についてですが、資料③を御覧ください。

暴力行為の発生件数は、小学校0件、中学校が20件、合計20件となっており、前年度と比べ、中学校で増加しております。これは、特定の学校・学年で落ち着かない状況がございまして、対教師暴力や生徒間暴力などが多くなっております。1,000人当たりの発生件数は、小学校は0件、中学校は7.4件、小中を平均すると2.7件となっており、小・中学校ともに全国と比べると少なくなっております。

暴力行為の要因は、友人関係のトラブルや家庭環境の急激な変化などが影響していることが多いのですが、暴力行為を起こす背景には、小さい頃からの生育状況などを小中連携の中で適切に捉え、その根本を解決することも重要であると考えております。今後も、児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるよう生徒指導の充実に努めるとともに、ケースに応じて、スクールソーシャルワーカーの活用や福祉部、児童相談所、警察などの関係機関と、より一層連携してまいりたいと考えております。

報告は以上でございます。

林教育長 それでは、ただいまの報告に関しまして、御意見・御質問等ございましたらお願いいたします。

常見委員 一番最初のいじめの認知のところで、小学校4年で多い理由というのはわかりますでしょうか。

学校教育支援室主幹（指導担当） 4年生で。実は、小学校でいうと昨年度も小学校の1年生が多く、続いて4年生が2番目に多いというのは、昨年度と同じような傾向となっておりまして、考えられることは、恐らくちょうど発達段階で自我が芽生えて友人関係が広がったりだとか、そういう発達段階によるものではないかなということは考えられます。

常見委員 クラス替えとかそういうことではない？

学校教育支援室主幹（指導担当） 恐らくクラス替えは3年生の時かなと思うので、ちょうど人間関係がいろいろ慣れて、その中での成長の中で、いろいろな問題が起こっているのかなということは、考えられるかなと思います。

常見委員 はい、わかりました。ありがとうございます。

林教育長 ほかに、御意見・御質問等ございましたらお願いいたします。

小澤委員 報告第3号の3枚目（暴力行為）の器物損壊、発生件数が3校で6になっているのですけれども、学校名は別にして、その発生状況というか内容はどのような器物損壊ですか。

学校教育支援室主幹（指導担当） 器物損壊につきましては、6件ですね。学校数でいうと3校ということで、トイレのドアを蹴って破損したとか、あとは壁を蹴って穴を空けてしまったとか、それからトイレの便座を破壊したとか、というようなものとなっております。

小澤委員 ここからは意見なのですけれども、結構深刻な状況だと思いますので、その指導にあたる先生方はどうしてもそのことへの強制型になりがちだと思うのですけれども、そのバランスをうまく取らないと、その教員の側の体罰とか、そういう形に結びつく可能性があるので、学校としてどう取り組んでいくかということも、当然御指導いただいていると思うのですけれども、そのところもまた改めて学校と協議いただければと（思います）。

林教育長 体罰との関係、それで研修の中に、アンガーマネジメントの研修を取り入れたり、いろいろとそういうところでは、学校独自で取り組んでいる学校もありますので、そうは言ってもやっぱり、子供たちが暴れるとかなり、教師にもリスクが高まりますので、そこら辺、十分今後の指導の中でお話をしていきたいなというふうには思いますけれども。

今現在、校内研修だとかでよく見るのですけど、アンガーマネジメントだとかね、そういうような研修に取り組んでいる学校ってありますよね。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい。校内研修で先日のいじめの部分もそうですけれども、やっぱりコンプライアンスという部分もありますので、やっぱりどうしても私たち、いろいろ保護者対応ですとか、生徒指導の案件を見るとかなり威圧的な指導がちょっと見られたり、逆に指導された生徒の保護者からの苦情というのもございますので、やっぱりその辺りはきちんと子供の心に、琴線に触れるような指導に心掛けてもらいたいということで、今後も指導していきたいなというふうには考えております。

林教育長 ほかにございませんでしょうか。よろしいですか。

荒田委員 資料の②（不登校）の3番のところ、（不登校となった）要因を選んでいただくというところの集計なのですが、「その他」が一番にきているという集計だったという結果で、様々な要因があったのだなと思って私はちょっと事前に見させてもらったのですが、はっきりしないということも「その他」に含まれているということだったので、はっきりしないのと、ここに含まれてないのは「その他」に含まれるのかもしれないけれども、対応してわからなかったということが、ここからちょっと読み取れなかったので、「その他」ということでひ

とくくりになっているものを細かくしていったほうが良いと思うのですよね、私は。この一番上に「その他」というのがきているので、要因をしっかりと分析しなくてはいけないという見方からして、はっきりしないというか、わからない部分についてはわからないという形で分けたほうが良いのではないかなというふうに思いました、「その他」の中を。これは意見ですが。

学校教育支援室主幹（指導担当） 一応、文科省の調査の項目がこういうふうになっているのですが、一応我々のほうで特に教育支援コーディネーター中心に一人一人の要因はかなり細かくは押さえておりますので、その中でもどうしても本人や保護者に面談しても、やっぱり理由がわからないというような部分もございますので、要はその一人一人の状況に応じた対応につきましては、今後もきちんと努めて対応策をとっていきたいなというふうには考えております。

荒田委員 恐らくそういうふうに行われているのだろうとは感じていたのですが、ちょっと見た時に表がわかりにくいなという部分があったので、意見させていただきました。

林教育長 全国の調査結果、それから全道の調査結果をこういうふうに公表されるのだよね。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい。

林教育長 だから、全国との比較というものも含めて、ここ、主たる要因というのも全国と全道と比較できるようになっているの？

学校教育支援室主幹（指導担当） はい、全国と全道の結果も。

林教育長 比較できるのですよね。例えばそういう比較の仕方だとか、全国的な傾向なのか全道的な傾向なのか、それから「その他」を全国と全道とは比較できないにしても、例えば分析の要素みたいなので、ちょっと分析してみるだとかいうことも含めて、来年に向けて検討してみてくださいか。

学校教育支援室主幹（指導担当） はい、わかりました。

林教育長 荒田委員、よろしいでしょうか。

荒田委員 はい。

林教育長 ほかにございますでしょうか。

笹谷委員 28年度ということなのですが、③の資料の暴力行為ですが、特定の中学校でとい

うお話ありましたが、今年度は落ち着いてきているのでしょうか。

学校教育支援室主幹（指導担当） 先ほどの特定の中学校という、昨年度の例えば対教師暴力のあった学校については、今年度は非常に落ち着いて、特に生徒指導の相談ですとか報告については、今年度はございません。

笹谷委員 生徒間暴力というのが1年生、2年生、3年生全ての学年で、28年度はあったわけですが、こちらのほうも落ち着いていますか。

学校教育支援室主幹（指導担当） そうですね。実はここにあがっている件数が事前に全て市教委にあがってくる、あがってこないものも実は、学校内だけで押さえているものも、実はここであがってきているものがあるのですけれども、特に今年度につきましては、特に中学校で生徒間暴力ですとか、何か大きな問題での、例えば保護者からの相談ですとかってというのが、今年は落ち着いている状態にあります。

林教育長 よろしいでしょうか。

笹谷委員 はい。

林教育長 ほかにございませんか。

いじめの件数でね、全道的というか、全国よりもかなり小樽は低い。それから、北海道と比べても低いという状況。そういう観点、特に全国との比較でいえば、かなり都道府県によって大きく差があるという、そこの捉え方というか、そこら辺がいろいろと各県だとかによって違ってくるのだと思うのですよね。そういう意味で、今後道教委のほうで、何かそこら辺、こういうふうにしていくとかいう方向性みたいなのはあるのでしょうか。

学校教育支援室主幹（指導担当） 平成28年の5月10日に文科省からの通知がありまして、実は25年度にいじめ防止対策推進法の施行に伴いまして、いじめの定義が変わったということ踏まえて、積極的により一層認知するよというところが、28年度に通知がございまして、それでさらに今年度も道教委のほうから連絡がありまして、より一層いじめの定義を踏まえて積極的に認知するよというよという指導が今年度道教委のほうからございました。

林教育長 それを受けて学校のほうには、何か特別な指示はしているのでしょうか。

学校教育支援室主幹（指導担当） 個別に全て11月にいじめのアンケートの調査結果が来た際に、改めて全ての学校にその旨を伝え、より積極的に認知するよというよというので伝えましたので、恐らく今年度29年度のいじめの認知件数については、膨大な数であがってくるよ今のところ予想はされます。

小澤委員 そのことについてなんですけれども、認知が変わったということは、いじめの実態をどう捉えるかという課題があったときに、数量じゃなくて質でいじめそのものの実態を捉える対応をしていこうというふうに変わったと、私は受け止めているのです。だから、そういう面では、数の多い少ないってということにとらわれることなく対応が必要なのだろうなということと、いじめはどここの学校でも起こりうると言っているのですから、繰り返しになりますが、数にとらわれないで質的な面で、子供たちの成長に影響が出ないようにということを軸にしていかなきゃいけないのだろうなと（思います）。

そういう点で言うと、先ほど（説明を）お聞きした、いじめの発見のきっかけのところに、本人あるいは、本人から担任へ訴えづらい状況があるのでしょうかというお話があったのですが、その辺のところは、例えばその質を問うと、本人が直接担任には言わないけどアンケートで答えるとか、本人はアンケートでは答えてないけれども、ほかの子がこういう状況があるからいじめじゃないかと捉えているとか、その辺りのところの整合性というか、内容を改めて精査していただくことが大切であると思います。そうすると1年生は学年でいうとすごく比率は高いのですが、本人もいじめと感じていないような事例も含まれているということが考えられます。学年が進むと判断力がつくのでそれはきちんと調整されるというか、正しいものに落ち着いてくるというようなことがあると思うので、そういう点も含めて、数ではなくて質的な面の把握と指導ということが、きっとこれから重点課題になると思いますので、そういう点、学校への指導のところでもまた改めて強化いただければと思います。

学校教育支援室主幹（指導担当） そうですね。いじめのアンケートには本人がいじめじゃないと答えていても、やっぱり周りの友達がいじめを見たとか聞いたことがあるという部分もありますので、そういう部分も各学校ではきちんと詳細に調査しております。あと、いじめの認知の仕方なんですけれども、本人がいじめじゃないと思っても、状況を考えていじめと認知になるケースもありますので、いじめの定義ですとか認知の方法については、今後より一層各学校のほうに浸透するように指導していきたいなというふうには考えております。

小澤委員 すみません、繰り返しで申し訳ないです。アンケートに、ちゃんと子供が、自分がいじめを受けていることがいじめと認知していけるようにしなきゃだめだと思うのです。そういう点で、本人はいじめと思っていないけれども周りの子が言っているという、そういう状況から、きちんとそこの把握をして、本人が、私はこういうことがいじめだと思うという認識を持ってきちんとそれがアンケートで伝えられれば、先ほどお話（説明）があった、本人から担任へ訴えづらいという状況は解消されていると思うのです。だからそのところを吟味し、こういうものはいじめなんだ、でもこういうものは本人の受け止めだね、というようなところが、これから先生方の指導で大切になると思います。

林教育長 よろしいですか。ほかにございませんでしょうか。よろしいですか。

各委員 （なし）

林教育長 はい、それでは今後生徒指導等で、学校への指導よろしく願いいたします。
それでは、その他の報告になります。寄付採納についてお願いいたします。

その他 寄附採納について

教育総務課長 寄附が3件ございましたので、御報告いたします。

1件目は、大成興業株式会社 代表取締役 佐藤公一様から、スノーモービル、157万1,400円相当を御寄贈いただいたものでございます。小樽からまつ公園運動場及びその周辺において、例年、歩くスキー事業を実施しており、コース整備にスノーモービルを使用しておりましたけれども、老朽化が激しく、事業の委託先であるおたる自然の村公社から更新を要望されていたところ、このほど、寄附の御厚意があったものでございます。

2件目は、国際ソロプチミスト小樽様から、12月2日開催の「チャリティークリスマス のつどい」の収益金の一部5万円を奨学資金基金に御寄贈いただいたものでございます。今回で30回目となる寄附でございますが、平成30年市議会第1回定例会にて補正し、基金に積み立てる予定でございます。

3件目は、絵本の会 ぐりとぐら 代表 笹谷純代様から、朝里小学校の子供たちの読書活動推進のために、児童用大型絵本4冊、3万8,400円相当を御寄贈いただいたものでございます。平成26年度以降毎年度御寄贈いただいております、今回で4回目となります。笹谷委員、大変ありがとうございました。

以上でございます。

林教育長 ただいまの件について、御質問・御意見等ございましたらよろしくお願ひします。
笹谷委員ありがとうございました。
これ、スノーモービルって新品ですか。

生涯スポーツ課長 新品です。

林教育長 新品。すごいですね。

生涯スポーツ課長 大変ありがたいです。早速使用させていただいています。

林教育長 ありがたいですね。
よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 それでは本件を終了したいと思います。
それでは、ただいまから非公開の審議に入りますので、報道関係者、傍聴者の皆さん、いらっしゃいましたら退席を願ひます。

<非公開の審議開始>

協議第1号 平成29年度教育費補正予算案について

教育総務課長から、平成29年度教育費補正予算案について説明し、林教育長から質問があったほか、全委員による協議が行われた。

協議第2号 平成30年度教育費予算案について

教育総務課長から、平成30年度教育費予算案について説明し、荒田委員から質問が、笹谷委員から意見があったほか、全委員による協議が行われた。

<非公開の審議終了>

林教育長 以上をもちまして、第12回目となります定例会を閉会させていただきます。